

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援用）

○事業所名	こどもサポート広場ころる		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日		2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名(世帯数8)	(回答者数) 6世帯(全体の75%)
○従業者評価実施期間	2025年 12月 8日		2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	7名(全体の87.5%)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフの専門性を活かした個別支援を行うことが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズや特性に合わせたプログラムの設定。</li> <li>支援計画に沿ってプログラムを提供している。</li> <li>スタッフ間で連携しながら支援内容を協議し試行錯誤している。</li> <li>担当を概ね2人程度に固定し、関係性を築き、安心して来所できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討の開催。</li> <li>よりお子様に応じた計画の立案や支援内容の提供ができるよう協議を深める。</li> <li>外部研修を受ける機会を増やす。</li> <li>社内研修をより充実して、実践度を定期的に振り返る。</li> <li>基本的な支援をマニュアル化し、高い基準で支援の均一化を図る(誰が担当しても基準以上の支援を提供できるように)。</li> </ul>
2	保護者の方と連携(活動内容の報告、お悩みに対応)	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の様子を報告する際にお子様の最近の様子を伺っている。</li> <li>相談があった際には別途時間を設けて面談を行う(支援の提案等)。</li> <li>保護者の方の考えを尊重する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎に来所されない保護者の方と情報共有を行う機会を確保する。</li> <li>保護者の方から提供された情報をスタッフ間でより共有する。</li> <li>よりお子様の気持ちや考えを踏まえて支援を実施する。</li> </ul>
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内環境・動線・安全面の向上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就学児のお子様に合わせて道具・設備が少ない。</li> <li>空間が広すぎるため、刺激のコントロールがしづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就学児用の机、椅子の追加やマットの新調等備品を揃える。</li> <li>マット等の段差をなるべく排除する。</li> <li>パーテーションを活用する等して活動場所を区切る。</li> </ul>
2	支援の質向上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階の把握が出来ていない。</li> <li>困りごとの背景を理解する力が不足している。</li> <li>就学を見据えた支援を提供できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内研修、外部研修を受講して発達段階を把握し、支援に活かす。</li> <li>お子様1名に対して2名以上で担当し複数の視点で実践する。</li> <li>疑問(感覚特性等)に感じたタイミングで調べたりスタッフ間で意見交換を行う。</li> <li>着席して過ごす時間を増やし、就学に向けて準備する。</li> <li>就学先でお子様に求められる力を把握する。その情報を取り入れて支援を行う。</li> </ul>
3			